



細胞具新聞

細胞具新聞
発行所: 細胞具新聞編集部
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-XXXX-XXXX
FAX: 03-XXXX-XXXX
E-MAIL: cell@cell.com

執拗なほどの取材

細胞具新聞
発行所: 細胞具新聞編集部
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-XXXX-XXXX
FAX: 03-XXXX-XXXX
E-MAIL: cell@cell.com



Newspaper clipping titled '細胞具新聞' with various articles and a large graphic.



暴力団の人におどかされることもある。
また、反対におどかしながらの仁死もある。

Newspaper clipping titled '細胞具新聞' with various articles and a large graphic.



何をしているんですか?
もうすぐあととか迎えに来るんです

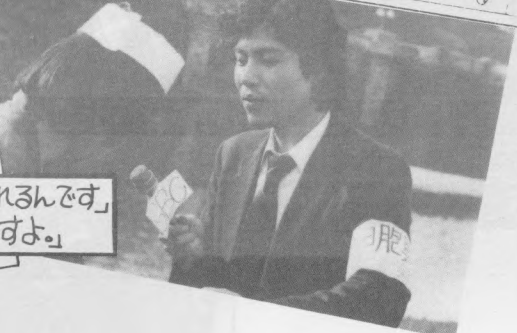
Newspaper clipping titled '細胞具新聞' with various articles and a large graphic.



すみません。ここにサインもらえますか?

Newspaper clipping titled '細胞具新聞' with various articles and a large graphic.

Newspaper clipping titled '細胞具新聞' with various articles and a large graphic.



よ、吉野屋の人に間違えられるんです。
ああ、なるほど。よくわかりますよ。

そして、今日もまた、竹下けいは取材に
東奔西走するのであった ** 終

着るふんぎの
おまます



なあ、ちよつとわての話、聞いてくれなはれ。わては、追波荘ちゃうアパートでかわつて一月ほど前に生まれました。わては三匹、わてらの生まれる時、うちのおがんです。初産やっただんで、泣きわめて、えらいさわぎやっただんでおます。おまけに飼いまの学生アホやから、オロオロするな。かりで、何んもできんかったんです。あ、そんで、しゃあないから、うちのわてらん、押し入れのダンボール箱の中で、最初に、黒シマの兄さん、次いで茶じまの姉さん、そして最後にこのわて、わては、おかん、ちよつと似て、白でおます。頭のちよつと、ちよつと問題ありまんねん。生えてますねん。これさえなかつたら、わてはほんまに真ッ白でおますのんやけど、なあ

なんでおますのやろ。今だにわかりまへ

わての飼いまは、学生のようでおます。観察力は、人間とくらべて月とスッポンです。

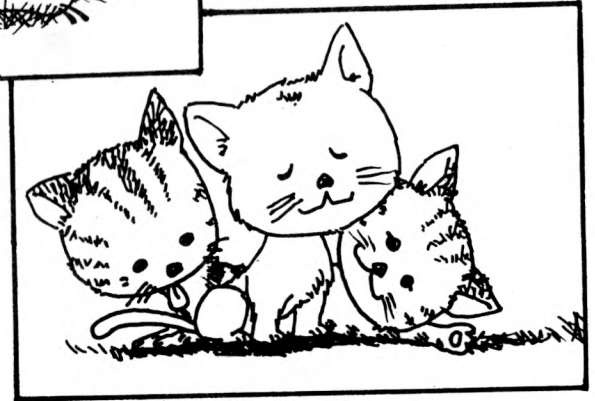
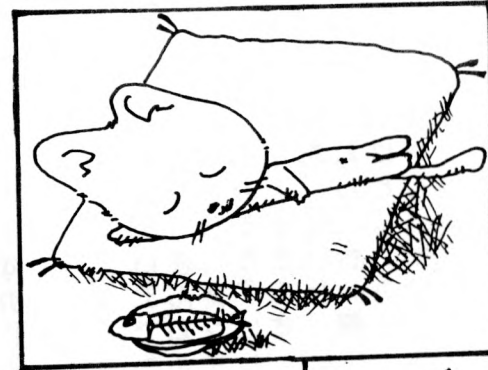
一目で飼いまのこと、たいがいわかるようにになりました。わての居る部屋とその他の学生の二人ずつ住んでるようでんな。わての居る部屋の主人が、叶さんと千原さん、そんで隣りが竹下さんと染沢さんといます。わてとこのおかん、この叶さんには一番、よなついでいるようでおます。な

それから、ちよくちよく、友人の方もお見えになります。かばさん、わらべさん、それから、えまさんというたかな。この人らがくるとこの人らどえらいこと始めますねん。まず、四角台の上で、えらい数の木ぎれみたいなもんをかきまわして、積み上げまんねん。そんで、「口ン」とか「チー」とか云いだしますねん。何んかのゲームでおますのやろけどあれ

こんな飼いまでおますから、時々えらいことやりまんねん。わてらまだ目のあかん頃から、タンボール箱から引っぱりだして、おもちやにしまんねん。わてら「わあ、うて泣きます」といいた、と、いって、あ、ないた、ないた、と、いって、まんねん。あの飼いま、そんなでわてら、おのにおかん心配して、泣かしますと、うちのおかん心配して、わてらさがそうと、都屋中うろろします。すると、またこの飼いま喜びまんねん。そうかと思つと、わてらの泣き声、テーアレコータ、で録音して、うちのにおかんその声きいて、テーアレコータ、うちのにおかん、わてら、ほんまにこればりわやでおます。わてら、えらい飼いまに、つかまつてもうたわ。ほんまにこれからどうなりましたねやろ。

えーみなさん、またお目にかかります。前にお目にかかっただ人は、だいたいお前でおましたなあ。それから、どないおすぞしでおますか。お元気でですか。わてらも元気で育つております。わてら、もうおかんな、追いぬくほど大きくなりました。みなさん、びっくりするやろと思ひます。そらまあ、うつとこのおかん、猫にする。と小っさい方です。から、それに似てわてらみんな小ぶりで、うつとこの家のそばうろうろしている野良猫に出れば、そばさいんですが。しかし、あの野良猫さん、うち、ごつと大きおまんあ、あれ、何食うてまんのやろ。そんなえもん食うてへんのとちやいますか。ほんま丸々こえて、どうしてでっしゃろ。ほんま不思議ですわ。

ところ、わてらやつと最近名前をつけてもらいました。でも、わてらあんまり



えにいらんのです。そらそうですがな。わての名前、できんば、言いますね。ひびい名前、しやろ。叶さんに言わすと、わてがどこでもおし、こするから、どこかできが悪いんやと言うんですな。もう、えらい名前つけられてしもたわ。さ、ぱりわやでおます。

それ、兼じまの兄さんは、ビビイ、言いまんねん。兄さん何かあるとす。ビビイ、鳴くからや、そうです。兄さん、えらい名前つけられたもんです。兄さん、わてら、しやくやさかい名前をよばれても返事せんことにします。しやあ、ないけ、ぱりわやや。

あ、それ、近頃うつとこの家にチビ猫が一匹迷いこんできました。このチビ、ビビイ、兄さん、さくりにおましてな。初めて見た人は、わからんくらいです。そら、兄さんの方が身体は大きいので、兄さんもおうじやうしとりますわ。

そんで、このチビ、よう食いまんねん。わてらの食いぶち、みんな食てもうて、それで、もうまた、くれ、言いまんねん。あれ、どないな胃袋してまんねんのやろ。です、から、このチビ、よう太って、ええ貴ろくしてまんのや。もうわやでおます。

でも、このチビ、風呂がごつと嫌いで、んねん。そらまあ、猫、うたうた、もと水はきらいです。けど、こいつのいやがり方は、もうそら、どえらいもんです。この間、あんまり汚いんで、叶さんが風呂に入れたら、うとしたり、もう水みただけで、手足、ぱらぱら、叶さんをひつかくや。みつかくや。ウー、ウー、ギヤ、ギヤ、もう、もう、戦争、そのものでした。それでも、なんとか、どつき倒して入れました。うな、あ、うちらも、あんな、うたうた、迷惑をか、けん、う、う、ない、かん、と思、う、と、り、ま、す、ほ、な、ま、た

ませんね。灰皿はひっくり返る。わいの
 鼻につめは引かける。しっぽにはかみ
 つく、そなたまらんですわ。ほんま。あ
 いつらこの前は、わらべさんらが、麻雀
 ちゅうゲームをやつてる最中に、突然、
 なぐりこみをかけましてな。台の上をグ
 チャグチャにしてハイッとまた走つて行
 きまんねん。そらえげつないもんや。さ
 らに、その前は、朝早く、竹下さんがま
 だ寝とるちゅうのに、その寝とる上を、
 ドゥーと走りぬけまんねん。竹下さんが
 寝ぼけまなこであれどないしたと思つと
 るまに、ニ・三匹が、その顔の上を走り
 ぬけよりましてん。竹下さん、顔中つめ
 あとだらけでおます。もう七転八倒でお
 ま。さ、ぱりわやや。竹下さん、それか
 ら一週間、顔中ほう帯だらけでおました
 おかわいそうに。おまけに、立つとる人
 の足やお尻に飛びつくのなんぞは、しち
 ちゅうですわ。こんなふうやから、わい
 ら、生傷が絶えまんねん。もう、あ、
 ちやこつちやヒリヒリしとります。
 それで、たまりかねましてな、ある日、
 噓さんが、
 お前ら、あんまりあばれると、捨てて

しまうぞ。言いましたん。そうしますと
 な、あいつらも、
 「お、こらあかん、そらちよつと困る。
 言いました、少しは静かになりまんねや
 けどな。そんなもん翌朝になるとコロッ
 と忘れて、また、ひとさわぎありまん
 ね。こらもう、どもならんちゅうんで、
 養子先を捜してきましてな。なんとか、
 二匹だけ養子に出しましてん。これで、
 五匹になつて少しはようなるかと思いま
 したんやけど、さ、ぱり変わらしまへん
 もうさ、ぱりわややおま、どないしたら
 よろしおまんねんやろ。誰がどないかし
 とくなはれ。

完結編 昭和58年4月執筆

「お、ぼーん、ぐしゃーん、トポーン。
 はよ出てきてくれ、どこ行つたんや。
 やぞー。三日程遊びに行つただけやんか
 ー。何してんのや、はよドア開けたって
 ーな。わい、お腹ペコペコやどないし
 た。ちゅうのやろな。半日ドア引っか

いとんの誰もドア開けてくれへん。誰
 もおれへんのやろか？ いや、そんなこと
 はあれへん。あのなまけものの竹下さん
 やつたらきつとおるはずやのにな。お
 かしなあ？
 竹下はん、またダミンをむさぼつとる
 んやないやろなあ。今年は、卒業がどう
 したこうしたとか、あと十二単位やとか
 言うてたのに、こんなことしてて大丈夫
 なんやろか？ こつちはいろいろ気、つこ
 てるのに、さ、ぱり通じてへんや、たけ
 どなあ。
 そんなことより、はよアパートの中には
 入れてもろて、食い物もらわんことには
 腹へつて死にそうや。
 「こら、あほ、かす、スカタン、何して
 けつかるんじや。はよ、開けんかい。デ
 キンボ様のお帰りやぞ。なめとんのか、
 おんどれにあかん、腹すき過ぎて目が回
 てきよつた。
 叶はんも叶はんや。いつもはちや？ん
 と、わいらが帰つて来てもええように、
 風呂場の窓にカギかけてへんのに。カギ
 さえあいとつたら、洗濯機にとび乗つて
 つめで窓があげられるのに、今日に限つ



てキツ子リカギかけやがって、どないしたっちやうんや、わいら外に出てるのわかってるやん。

竹下はん、はよ起きなはれ!! ドア開けたてくれや。開けてくれるだけでよろしーがな、他にはな、あーんにもいりません、ただ開けるだけでよろしいんだす。あーあ、タメや、こうあかんわ。どうしようもあれへん。ちよっど休んでよ。そのうち誰ぞ帰って来るやろ。

あら?? 何や、誰が来るで。誰やる? あ、あれは不動産屋のオッサンやんけ。なんや、なんや?! 何がシッ、シッ、やうるさいわい。わいは誰か帰ってくるの待ってんねや。オッサンこそ何してるんや。

あ、あほ!! そこは叶さんの部屋やぞ。何かぎなんぞ出して、いちびっとなねん。あ、このくそオヤジカギ開けよ。た、ホサン、ドロボウに商売がえけ!。警察呼べし。あ、中にまで入りやがって。オッサン、入って行きよ。た。どないしたんや。

何んやねん。わいもちよっど入ったろ。

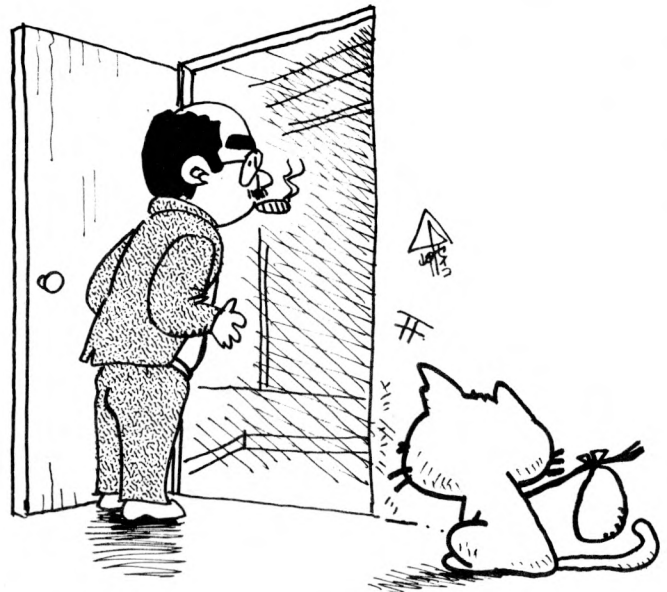
「わっ!!」何んもあらへん。えらいまめな言葉もおつたもんやな、家財道具いっさいがっさい持っていきよった。ついでに叶さんと竹下はんも盗まれたんやうやろな。
「あいたあらしごなにするんじや、オッサン、いたいやんけ。
「あたし、痛いちゃうとんじやあ。ええ度胸してるやんけ、わいに喧嘩うろう。ちやうのんか。おんどれ、しばきた★
「あたし!!」 あかん、本気や、逃げよ。

いててて、あのオッサン何考えてんねや。おもいっくそ蹴とばしやがって。が弱い猫を、もっどいたわらんかい。わしやナイーブなんじや、あーあ心身ともに傷つくやんけ。
そんなこと言うてる場合やないど。なんや、あの部屋の中は、何んもあれへんやんけ。どないなっとなねん。夜逃げで、もしたんかなあ。そんなはずはないわな。



あの鉄面皮二人がそんな気の小さいことするわけないし、第一、家財道具いっさいがっさいまとめる程の能力ないしな。それに、あの不動産屋のオッサンは何んやろ...
あかん、わい、今疲れてんねん。こんなアホなことでのいちいぢいどつたろ、身がもたん。そうでのうても世の中なやみごとが双いんや。でも、わいの探察心がじやまや。自分でも恐ろしいほどの。この事象への探察心が、この問題を考えささずにはおかんのや。及む及む...

やっぱし、あれしかないな。きこつてあれや。どう考えてもあれやな...
「引越す!!」
きたあー!!。もうそう考えるしかあれへんやんけ。叶さんと竹下さん、引越してしもたんや。そうや、これはどう考えても引越すししか考えられへん。わいの緻密な情報分析を持ってすると、もう行きつく所は引越すしや。間違いない。わいたくの正解や。なんとすばらしい猫なんやろ。



へたな人間より、よっぽどするどいな。わらべはんあたりや。たらカンやキに勝てるな。うん、左手はんあたりや。たら五分くらいかなあ。梁沢さんにも勝てるな、あれはドーブリヤかな。岬さんと……

ちよつと待てよ。そんなこと言うててええのんかなあ。これにはもつと深い問題があるような気がしてならんぞ。えと……叶はんと竹下はんが引つ越した。ちやうことわやで、早い話、なんちやうか？叶はんと竹下はんはわいの飼い主や。ちやうことわや、するとやなあ。飼い主が引つ越す。ちやうことは、どういうことやあ??

なんやあ、飼い猫のわいがなんでここにおるとあかんねん。そうや、そこがもひとつわからん。普通の場合やね、飼い主が引つ越す時、飼い猫とが飼い主とがはどうするんやろ。まあ、飼い主とがちやうくらいやかなあ、いっしょに歩いて行くんやろなあ。いっしょになあ……

「ええい、うるさいわい。誰じや、わいの深い思索のじやまをする奴は??」あれ、おかあはんやないの。おひさし

戻ります。お元気だったか？うわー、なんや、なんや、えういけんまくでどないしたん。まあまあ、落ち着きなはれ、落ち着きなはれて！そうまくし立てたら、何言うてんのかさ。ぱりわかりません。落ち着いて、ゆっくり話してみなはれ。え、何ですか？へえ、へえ、そうでせ。叶はんと竹下はん……へえ、へえ、引越しはりましたで。

「うわー、やめなはれ、やめとくなはれ、興奮したらあかんちやうとんのに。しまいにどつきまっせ。いくらおかんいうても、怒りまっせ、わいは、聞きますがな、聞きます。せやから、ゆっくり順序を追って話をしとくなはれて、な、な。」

「へえ、わいも、今、引越しのことで悩んでましてん。でもあんまり腹へりすぎで、もうひとつ考えがまとまりまへんのや。」

「そうや、ちよつと叶はんに食いちんを貰てきたら……」

「あり、??」

「あり、??」

「叶はんは引越してしもてるやん、それしたら……なんやー??」

「わい、引越した

先教えてもろてないがな。」

「あ、おかん、どこに行きまんねん。こら、おかん。」

行ってしもた。えらい気の短い猫や、ほんま。てなこと言うてられへんわ。ひつとするとなんかえらいことやで、これは、わいら、ひよつとして、ひよつとして、今日から野良猫だ??

あかん、わい一番キレリなこと思いついてしもた。この弱った身体にカンズンしみるわ。どないしよう。どないした。ええんや、わいら野良猫やて。しもた、あの野良猫のオヤブンさんにもうなつとペンチャラつこうと。たらよかつた。そしたらエサも分けてくれるやろうし、寝るところも世話してくれるかも知れんし……

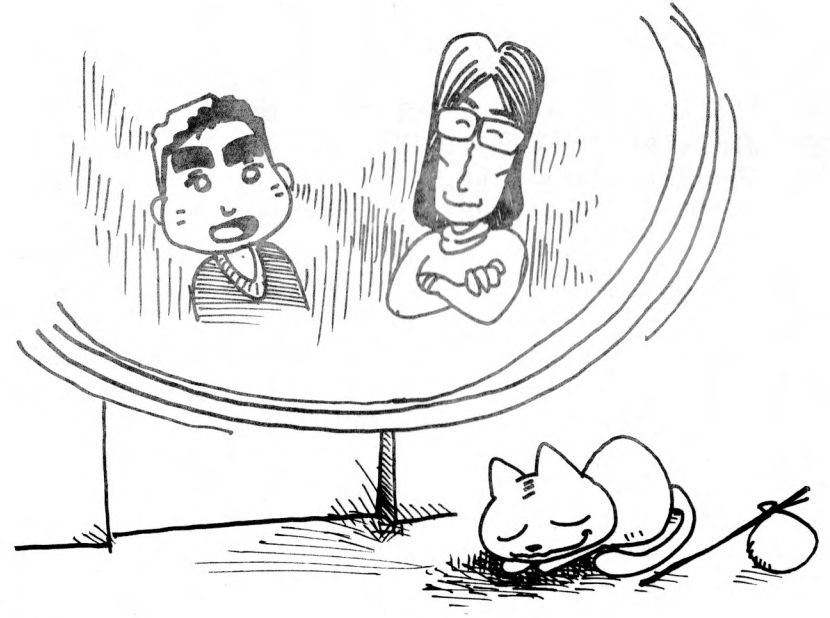
それどころやない。叶はんと竹下はん。えらい薄情な人たやなあ、あの二人。一言ぐらいい声かけていってもええやないか。まあ、声かけたかてどうしようもないけど、そうあんまりやで。少しはこつちにも心の準備ちやうもんを与えてもらわんことには、何考えていねん、わいは、心の準備ができたかて、どないなるちや

うもんでもないやろに。
 あっ、もうあかん。限界や。頑いたな
 てきた。ちまっど脳ミリの使い過ぎや。
 身休こわせんうちに、ちまっど休まん
 あかんなあ。ちまっどあの日なたで、休
 んでこましたろ。

「よっ、こらしまっし。」
 あーあ、ええ気持ちや。頭の使い過ぎ
 で身休がギシギシゆうとる。ぽかぽかお
 日さんが、ようてつていい天気や……。
 でも、なんでやるなあ。叶はんと竹下
 はん、なんぼアホでも、こんなことする
 人らやないと思っくんやけどなあ。そらま
 あ、確かによいじめられたわなあ。天
 気予報やゆうて二階から落とされるし、
 しっぽには噛みつかれるし、ひげはライ
 ターで焦がされるし、洗濯バサミで指を
 はさまれるし、湯船で泳がされるし、目
 つぶしはくらわされるし、でもそんなも
 ん子供のことすらやんか。最近のがきは
 もっどひどいことするやんか。特に、横
 兵方面じゃあ人を殺したりするのもおる
 言っし。叶はんも竹下はんも、そういう
 人間とは違うで。ええとこもあるんや。
 例えば、えーと、えーと……。今、ちまっ

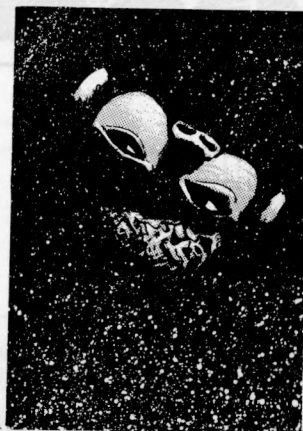
と思ひ出せんけど、悪い人やない。気軽
 にわいらを見捨てる人やないはずや。
 そうや、そうや、悪い人やない。何か
 事情があつたんや。わいらを捨てなあか
 ん事情が。そうやないと、わいら、わい
 ら……。
 叶はんも竹下はんも、そしてそして、
 わらべはんも、染沢はんも、カバはんも、
 叶はんも、高見はんも、みんなみーんな
 きつとわいらのこと思ててくれる。きつ
 とそうや。そしてそのうち、そのうち、
 「ピヤ、ポコ、元気がいい。また地震が
 こやろうでーし。」なんて言いながら、鼻
 て来てくれるはずや。たぶん、きつと、
 おそらく、きつときつとそうや。そうに
 決まってる。そうや。待ってればええん
 や。そしたらまた、みんなで一緒の日が
 くるんや。そうや。そうや……。

んああ。あーあ、お日様ぽかぽかで、
 ええ気持ちや。眠たなつてきたなあ。
 今夜のゴハンは、どこで食べようかな
 あー……。お日様、ええ天気やなあ……。お
 かあはん、どこ行つたのかなあ……。お
 むにや、むにや……。余しまい。





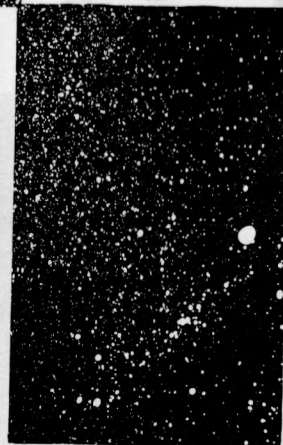
生田



莫情



三鬼
亮俗



へ飛び込んだ。生田も柵を飛び越える時
 より、こうして、私の意識の中にも、
 一つの意識が、私の意識の力を破り、
 外へ飛び出して、今、私が眠れないのは、
 それからなのです。私、もう目が覚め、
 らないから、私、
 羊ガニ匹、教えて下さい。と、おしまい、
 誰カ、教えて下さい。と、おしまい、
 眠れるか。

